



アバン史上 2014年度 バーモンドカップ 第24回全日本少年フットサル宮城県大会 初優勝 やったぜ! 全国大会出場!

アバンがわらばん
特別号外



🏆 キャプテン 高田将希くん

■優勝を決めた瞬間はどうだった?

「優勝を決めた瞬間、頭が真っ白になりました。涙が自然にあふれてきて、『これは夢かな』と目の前の状況が信じられませんでした」

■改めてどんな気持ち?

「自分としては『アバン史上初』という結果がとても嬉しいです。アバンの歴史に名前を刻んだことが誇りだと感じています」

■自分のプレーはどうだった?

「今大会の自分の役割は、相手の中心選手を徹底的にマークすることでした。体を張って、声を出し、チームの為に死にものぐるいで頑張れたのが良かったです」

■最後に一言!

「今まで、キャプテンという責任が大変だと思う時もあったけど、すべてのアバンの活動が自分を成長させてくれたと思います」
「親やコーチや仲間への感謝を忘れず、全国大会でもう一度アバンのサッカーで輝きたいです」



🏆 前田忠嗣 総監督

■優勝の勝因は?

「今までのすべての取り組み、練習、試合が積み重なった結果だと思えます。あえて言うなら、夏の雪山遠征・立山杯・雪山のトレセンチーム、全国の強豪チームが集う歴史ある大会でこのチームの今後の活躍を予感しました。6月の全日本少年サッカー大会で思うような結果が出なかったことで一時、チームは落ち込みました。ただ、その雪山遠征で、数々の強豪チームと互角以上に戦えた経験は、『自分達もやれる』と自信を取り戻すきっかけとなりました」

「大会準備期間中のターニングポイントは、大会直前の交流試合でした。優勝候補の選手SSSと試合することができたのですが、その試合は惨敗。本大会でのゲームプランを修正するきっかけとなりました。そこから私も選手も迷いがなくなりました。県大会直前の強化練習でのPK練習も良かったかも知れませんが、30分くらいをPK練習にあてました。実際、選手SSSさんとの試合ではPK戦にもつれこみ、全員が決めることができたのですから、やって本当に良かったです」

■2チームで大会を戦ったことについては?

「今大会、2チームを編成し、大会に参加したことは大きかったです。正直、両方のチームに可能性があったと思います。実際、太白ブロック予選の決勝戦、県大会の予選でアバン対決が実現したのですが、それぞれスコアは2対1、5対4と接戦でした。お互いの存在がプレッシャーとなり、励みとなり、彼らの成長につながったと感じています」

■今後の課題は?

「全少が終わってから、『球際の強さ』については、しつこいくらい取り組んできました。『球際』といっても、ただ激しく行くということではなく、『行くか行かないか』『プレッシャーのある中、どうボールをコントロールするのか』言わば、接近戦での駆け引きの事です。かなり徹底し強化しました。全国大会に向けて、更に強化を進めていこうと思います」

■全国大会に向けての意気込みを!

「全国大会では『子供達に楽しんでもらいたい』という想いが強いですが、もちろんただ楽しいということではなく『本当の楽しさ』を追求して欲しいです。選手の皆さん、これからも一生懸命練習に取り組み、全国の強豪にどこまで通用するかためしてみよう! 私は全国大会優勝を本気で考えています!」

🏆 決勝ゴール 勝山俊平くん

※ 決勝戦は、3対3の延長戦。Vゴール方式(先にゴールを決めたチームの勝利)にもつれこみました。そして延長戦開始も秒、俊平くんの渾身のミドルシュートが相手ゴールネットに突き刺さり、ドラマチックな幕切れとなりました。

■ゴールを決めた瞬間は?

「決めた瞬間、何が何だか分からなくなりました。周りの喜び姿を見て、ようやく勝ったのだと理解できた感じです。ゴールも何も見てませんでした。ねらっていたと言うより、体が自然に動いたという感じです。ただ、どんな時も『ゴールに向かう』という気持ちが、あのゴールを生んだのだと思います」

■全国大会をどう戦う?

「全国の強豪チームを相手にも、気持ちで負けないようにしたい。たくさんゴールを決めて、宮城県のどのチームも達成していない、『全国制覇』を目指したい!」





宮城県大会優勝までの全結果

※今大会は、2チームで大会エントリーしました。
※アバンP(パープル) アバンI(インディゴ)

太白ブロック予選全結果

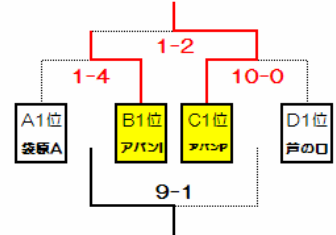
Aブロック		Bブロック	
A1	袋原A	B1	TN (A)
A2	大野田	B2	アバヴォ
A3	茂庭台	B3	TN (B)
A4	袋原B	B4	八本松
		B5	アバン P

Cブロック		Dブロック	
C1	上野山	D1	エナブル
C2	東長町	C2	芦の口
C3	アバン I	C3	四郎丸
C4	金剛沢	C4	やぎやま
		C5	鹿野

Aブロック		Bブロック	
袋原A	2-1 大野田	TN (A)	3-0 アバヴォ
茂庭台	0-2 袋原B	TN (B)	1-1 八本松
袋原A	2-1 茂庭台	アバンI	3-0 TN (A)
大野田	0-3 袋原B	アバヴォ	0-1 TN (B)
袋原A	6-0 袋原B	八本松	2-6 アバンI
大野田	1-4 茂庭台	TN (A)	7-2 TN (B)
		アバヴォ	4-2 八本松
		TN (B)	1-8 アバンI
		TN (A)	4-2 八本松
		アバヴォ	2-2 アバンI

Cブロック		Dブロック	
上野山	2-1 東長町	エナブル	1-3 芦の口
アバンP	13-0 金剛沢	四郎丸	2-3 やぎやま
上野山	0-10 アバンP	鹿野	6-2 エナブル
東長町	6-3 金剛沢	芦の口	4-4 四郎丸
上野山	6-2 金剛沢	やぎやま	1-0 鹿野
東長町	0-9 アバンP	エナブル	1-5 四郎丸
		芦の口	3-2 やぎやま
		四郎丸	6-1 鹿野
		エナブル	3-5 やぎやま
		芦の口	5-3 鹿野

- 1位: アバン パープル
 - 2位: アバン インディゴ
 - 3位: 袋原SSS
 - 4位: 芦の口SSS
- ※太白ブロックからは4チームが県大会に進出



県大会予選リーグ全結果

Aブロック															
順位	チーム	勝	敗	分	得点	失点	勝点	順位	チーム	勝	敗	分	得点	失点	勝点
1	アバンP	3	0	0	16	4	9	2	アバンI	2	1	0	9	9	4
2	袋原A	2	1	0	10	3	6	3	袋原B	1	2	0	5	7	3
3	大野田	1	2	0	5	10	3	4	茂庭台	0	3	0	2	14	0
4	八本松	0	3	0	2	14	0	0	アバンI	0	3	0	2	9	9

号外! かわらばん編集後記

アバン仙台SCは2004年、2005年の全日本少年サッカー全国大会出場経験があります。その頃のアバンのスタイルは、持ち前のスピードを活かした縦に速いサッカーでした。素晴らしい選手を揃え、宮城県予選を圧倒的な力で制覇したものの、全国では「技術の差」を痛感しました。(その頃は、サッカーでは強かったものの、フットサルは苦手だった事を覚えています)

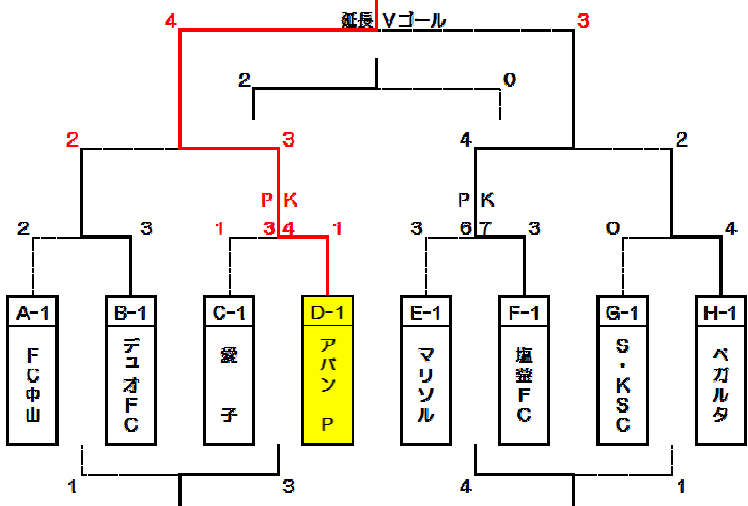
その経験をきっかけに、個人の技術強化を徹底的に取り組みました。ただ、その頃からペガルタジュニアさんが全国大会の常連となり、なかなかナンバーワンをとることはできませんでした。それでも県の主要な大会で準優勝やベスト4と結果を出しつつ「個の技術のアバン」を印象づける戦いを繰り返してきたと自負しています。

そして近年、技術が最も必要とされる、パーモンドカップ・全日本フットサル宮城県大会において、3年連続県大会決勝進出、ついに今年、初優勝をとげました。優勝を決めた彼らの頑張りは素晴らしいものですが、長い時間をかけ、伝統を作り上げた先輩達の存在を忘れてはなりません。

また、アバン室内練習場の存在も大きかったです。元々は、震災の影響で練習場がなくなったこと、放課後等デイサービス(発達障害のある子供達を療育する仕事)の施設として作ったものですが、これが本当にチームの技術強化の大きな助けとなってくれました。狭いコートでの徹底した技術練習は、他のチームには無いものです。

最後にフットサルについて...。ただでさえ難しいサッカーの技術、判断を狭いコートで休みなく発揮し続けなければいけないフットサル。インターネットなどで調べてみて下さい。世界の名だたるスター選手の多くは、幼少の頃からフットサルに親しんでいます。メッシ、ロナウド、ネイマール...、教え上げればきりがありません。小学生~中学生年代で身につけた技術は宝物です。今回、彼らは幸運にも最高結果を手に入れたのですが、本当に「アバンに入って良かった」と思うのは、もっと先になるのかもしれませんが。

県大会決勝トーナメント全結果



- 優勝: アバン パープル
- 2位: 塩釜FC
- 3位: デュオFC
- 4位: ペガルタ

